

熟練したサッカー選手の予測スキル：1対1守備場面の視覚探索行動

順天堂大学大学院
スポーツ健康科学研究科
学籍番号：4119036
氏名：長谷川 賢典

【目的】

サッカーにおいて、相手からボールを奪うために高度な予測スキルが求められ、それを発揮するために視覚探索行動が重要となる。そこで本研究は、サッカー1対1守備場面における熟練したサッカー選手の予測スキルと視覚探索行動について明らかにすることを目的とした。

【方法】

熟練者群 12 名（平均年齢 21.1 ± 1.1 歳、競技経験年数 15.5 ± 0.9 年）と未熟練者群 10 名（平均年齢: 21.0 ± 1.0 歳）を対象に実験を行なった。実験課題は、ドリブラーがドリブルから左右に方向転換する刺激に対して左右を選択する選択反応課題とした。提示映像は、ドリブラーの方向転換時点を 0ms とし、-160ms, -80ms, 0ms, +80ms で遮蔽する映像とした。被験者のドリブルコース予測時の正答率、反応時間、視覚探索行動を熟練者群と未熟練者群で比較するため 3 要因分散分析（競技レベル[熟練, 未熟練], フェイント[あり, なし], 遮蔽[-160ms, -80ms, 0ms, +80ms]) を行なった。

【結果】

熟練者群は、未熟練者群に比べて、-80ms 遮蔽条件で予測正答率が有意に高いことを示した ($F[1, 20] = 90.27, p < .001$)。また、熟練者群は、未熟練者群に比べて、ドリブラーの下腿と足に視線を配置することが示された ($F[1, 20] = 7.2, p = .014$)。

【結論】

本研究の結果から、熟練したサッカー選手は、未熟練者に比べて方向転換する地点よりも -80ms で正確にドリブルコースを予測していた。また、熟練したサッカー選手は、ドリブルコースを予測する知識に基づいて下腿と足に視線を配置していることが明らかとなった。